

# 「寄郎屋」 内閣府HPで紹介

日本版コミュニティー・シェッド 松尾准教授 (作業療法学専攻)ら取り組み

リハビリテーション学科作業療法学専攻の松尾崇史准教授らのグループによる日本版コミュニティー・シェッドの取り組みが、「総合知活用事例（総合知の活用方法の進化を目指す事例）」に取り上げられ、内閣府のホームページ（HP）で紹介されています。「総合知」とは、専門領域にとらわれずに集う多様な「知」。科学技術・イノベーション基本法に規定されています。

JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）－RISTEX（社会技術研究開発センター）の支援による「シチズンサポートプロジェクトによる社会的孤立・孤独の一次予防」と銘打った取り組みは、住民が自主的に集い、さまざまな活動を行う場（シェッド）が拠点となります。

日本版コミュニティー・シェッドは、1990年代にオーストラリアで誕生した高齢男性の居場所メンズ・シェッドを参考にしたものです。研究グループの主要メンバーに名を連ねる松尾准教授らは、2023年12月、水上村でコミュニティー・シェッド「寄郎屋」を設立。現在16人の村内会員が週1回集まり、竹炭づくりやソバ打ちなど多様な趣味活動を自主的にを行っています。

プロジェクト全体では、別のメンバーが札幌市で「ポッケコタン」を立ち上げたほか、「日本版コミュニティー・シェッド協会」も誕生。松尾准教授らは、シェッドを立ち上げようとする人たちの

ために手引書を作成しました。

松尾准教授は「嬉しさというよりもさらに身の引き締まる思い。最近では、我々の取り組みから保健師の個別指導に繋がる事例も出てくるなど、シェッド活動が地域包括ケアシステムの一画を担う可能性も見えてきました。今後も、日本でシェッド活動が広く普及されるよう尽力したいと思います」とコメントしました。

松尾准教授らの取り組みは、以下の内閣府HPで見ることができます。

[https://www8.cao.go.jp/cstp/sogochi/jirei\\_3kai.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/sogochi/jirei_3kai.html)

## 熊本県水上村「寄郎屋(よろうや)」



内閣府の「総合知活用事例」として紹介された寄郎屋の活動（内閣府HPより）

## 熊本県感染管理ネットワーク学術講演会・研修会

### 「ゲノミクス最大限活用」黒田教授（医学検査学）特別講演

令和7年度の熊本県感染管理ネットワーク学術講演会・研修会が6月14日（土）、1300講義室Lで開催されました。県内の感染症・感染制御を専門とする医師、歯科医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師で組織する「熊本県感染管理ネットワーク」が主催する年1回の学術講演会・研修会で、本学も事務局の一翼を担っています。

竹屋元裕学長ら本学の教員も含め計63人が参加。3部構成で進行し、1部ではネットワークの活動報告、2部ではトピックとして、2024年に改訂された「成人肺炎診療ガイドライン2024」の改訂のポイントについて、熊本大学の

岡本真一郎医師とくまもと県北病院の永田邦昭臨床検査技師が教育講演を行いました。

3部では、本学医学検査学科の黒田誠教授が「ゲノミクスを最大限に活用する～熊本県内の感染症研究と公衆衛生対策の高度化を目指して～」と題して特別講演。新型コロナ、薬剤耐性菌、環境調査や、稀で診断困難な感染症などのゲノム解析とその有用性について、自身の研究に基づき、わかりやすく解説しました。講演後は活発な質疑応答が行われ、参加者も大いに啓発され、大変有意義な講演会でした。

（副学長 川口辰哉）



## ピア・サポ 通信

## 後輩のため 養成講座経て試験対策相談会

6月28日(土)にピア・サポーター養成講座を開催し、ピア・サポーター78人、プチ・サポーター71人が参加しました。ピア・サポートとは何か、傾聴スキル、問題解決スキル、オープンキャンパスでの活動等について、講義や演習を行い、活発な意見交換がなされる場面もありました。

また、7月1日(火)から4日(金)までは、昼休みに定期試験対策相談会を開催し、多くの来場者がありました。相談会活動が恒例行事として定着してきた印象です。ピア・サポーターたちは1年生の不安や質問を聞き、丁寧に対応していました。

7月、8月のオープンキャンパスでの活躍も期待しています！(学生相談・修学サポートセンター)



ピンクのユニホーム姿で1年生生の相談に応じるピア・サポーター

出場選手のケアをする学生ボランティア



陰で大会を支えた本学の学生たち



## 九州車椅子テニス大会 本学学生が選手支援

九州車椅子テニス大会が6月28日(土)、29日(日)、熊本市のパークドーム熊本であり、本学の理学療法学専攻1～3年次生計13人がボランティアとして参加しました。

当日は、同会場で行われていた別競技で熱中症による救急搬送者が出るほどの酷暑でしたが、学生たちは終日、ボールパーソンとして選手を支え、大会運営に尽力しました。その真摯な姿勢と協力的な態度は、大会スタッフや選手からも高く評価されました。

会場には「くまモン」も登場し、大会を大いに盛り上げました。学生もくまモンと交流し、くまモンからボール出しをしてもらった一幕も。さらに、熊本県理学療法士協会が設置したトレーナーブースの見学を通じて、選手へのストレッチ介助など、実践的なリハビリ支援の体験も行うことができました。

また、学生たちは車椅子体験にも参加し、競技に対する理解を深めました。休憩時間にはテニス協会からかき氷の提供もあり、和やかな雰囲気の中、学びと交流を深める2日間となりました。  
(理学療法学専攻 枝尾久美)

# 大災害に備え避難所運営学ぶ

公衆衛生看護学専攻科

来るべき大災害に備え、公衆衛生看護学専攻科の学生たちに実践的な危機管理能力をつけてもらおうと1日（火）、3103講義室Sで、災害医療のスペシャリストであるDMAT事務局の池田初男氏を招いての、避難所運営ゲームがありました。

夏の朝、マグニチュード8.0の大地震が発生、気温が徐々に高くなる中、阿蘇医療圏の避難所に続々と避難者が集まってきたという想定。停電、断水、ガス遮断など細かな条件が加えられると、説明を聞く専攻科生たちの表情はだんだんと真剣に。6～7人のチームに分かれた後、リーダー役、受付係などの役割を決めて、避難所運営が始まりました。

受付係が持つカードには、世帯番号と避難してくる人たちの名前とともに、持病や車いす使用の有無や、目や耳が不自由であること、また感染症が疑われるような発熱・嘔吐の症状が出ているなど、細かい情報が書かれています。専攻科生たちは、その人たちを避難所のどこに誘導するか頭を悩ませていました。

また、避難してきた人たち全員が生活する空間であるため、簡易トイレや更衣室の設置、物資保管場

所の確保、乳児のおむつ替え・授乳スペースをすることなども考慮しておかなければなりません。時折「ペットと避難したい」「避難所内で撮影されて困る」といったイベントカードも登場。チーム全員でどう対応するか考え、注意書きを作って掲示板に張り出して対応する様子も見られました。

ゲームという名前ですが、カードには実際に起こりうる問題も書かれていて、終始真剣な表情で臨んでいました。（NL編集部）



避難者の名前が書かれたカードを配置していく専攻科生たち



## 就職・実習支援課 平川 文文課長



転んでケガをした翌日（2018年10月9日）、出張で浜松へ向かう新幹線の中で筆者撮影。体裁だけでなく、タイミングも悪かった。

## カルシウム不足

およそ30年前、空手の組手中に相手の左回し蹴りが右脇腹にヒットした（直接打撃制）。腹部の中心にまで蹴り足がめり込むような感覚に「やられた！」と思ったものの、アドレナリンの作用なのか、その瞬間はさほど痛みを感じなかった。が、数十分後にくしゃみをした瞬間、鼻水と一緒に涙が出るほどの激痛に襲われた。翌日整形外科を受診すると肋骨にW型の勲章が刻まれており、医師から内科の受診も勧められ病院をはしごした。幸いにも内蔵にまでダメージは及んでいなかった。

それから時を経て7年前の体育の日（現スポーツの日）、人生2度目の骨折に見舞われた。ジョギング中に転倒し、左手橈（とう）骨をやってしまった。「よりによって体育の日に転んでケガとは体裁が悪い」。ひとり肩を落とし、休日診療の病院を出た。

そしてその3年後、体調不良で同じ病院を受診した。大きな異常は認められなかったが、医師から「カルシウムが不足していますね」と告げられた。それ以来、ジョギングの後にチーズや豆腐で一杯やるのが楽しみとなり、現在に至る。果たして、カルシウム不足は解消されているのだろうか。

## 銀杏アラカルト

■大津高校2年生が来学 大津高校理数科の2年生40人が7日（月）、来学しました。一行は入試・広報課職員から大学の概要や医療職についての話を聞いた後、学食や図書館など、学内を見学。最後に同校卒業生である3人の学生たちから、本学を選んだ理由や講義・実習などについて説明されると、高校生たちはいきいきとした表情で話を聞いていました。（入試・広報課）



先輩学生の話聴く  
大津高の生徒たち

## 24日、本学で国際シンポジウム

Allied Health Science symposium (AHSS) が 24 日 (木)、本学で開催されます。AHSS は、Centro Escolar University、Far Eastern University (いずれもフィリピン)、Khon Kaen University (タイ)、Daegu Health College (韓国)、そして本学の 5 大学が持ち回りで毎年開催している国際シンポジウムです。2020 年以降は Zoom によるオンライン開催が続いていましたが、昨年からは on site に戻り、今回は記念すべき 10 回目の開催となります。

Keynote Speech では、尚絅大学の柳田紀代子教授が「くまモン学」について講演します。Plenary Session では「各大学の主要な取組みの紹介」というテーマのもと、本学からは健康・ス

ポーツ教育研究センターの荒木栄一センター長が発表を行います。続く Breakout Session では、医学検査学科の永田和美准教授、看護学科の三輪富士代教授、リハビリテーション学科の岩下佳弘准教授が、それぞれの研究に関する発表を行います。また、今年は初めて大学院生によるポスター発表を企画し、本学からも 7 演題の発表が予定されています。

このシンポジウムは、1 年以上にわたり国際交流委員会を中心に準備を進めてきました。当日は、多くの教職員の皆さまにご参加いただけますようお願い申し上げます。

(青木学・国際交流委員長)

### ■当日のスケジュール (会場) ■

Opening Remarks (50 周年記念館) 9:00 -

Keynote Speech (50 周年記念館) 9:10 -

Plenary Session (50 周年記念館) 10:40 -

Breakout Session (MT: 1200S, NS: 1202S, Rehabilitation: 1201S) 13:30 -

Poster Presentation (レストランピリア 2F)

\* Poster Presentation は Breakout Session 終了後から 15:50 まで

Closing Ceremony (50 周年記念館) 16:00 -

### 週間行事予定 (7 月 14 日 ~ 7 月 22 日)

|          |                  |
|----------|------------------|
| 7/18 (金) | 就勝ガイダンス (リハ 4 年) |
| 7/20 (日) | オープンキャンパス        |